

学生交流から始める国際化 その3

— 第二外国語の履修学生と留学生の教育活動報告及び今後の展開 —

酒匂 康裕・林 君穂

1. はじめに

本稿は近畿大学内における教育交流活動の一環として2008年度より実施してきた、『パートナーシップ』（2010年度は6月実施）及び『ことばのフェスティバル』（同年度12月実施）の報告を行なうと共に、本活動を第1回目から総括し、今後の活動方向の検討、正規の授業時間外における外国語学習支援方法や、学内における学生を中心とした国際交流のあるべき姿について提案を行なうものである。

『パートナーシップ』と『ことばのフェスティバル』は共に、2008年度に旧語学教育部学習支援委員会委員と教員有志によって始められた。本活動の目的は外国語（主に第二外国語）を学んでいる日本人学生と留学生の交流を通じ、日本人学生には学習している外国語運用の機会提供と外国語学習への動機づけ、留学生には日本人学生との信頼関係の構築を行ない、本学における外国語教育と学習、及び学内の国際交流をより一層活発にするとところにある。第1回、第2回の詳細な内容については、魏穂君・酒匂康裕（2009）及び、酒匂康裕・徳永恭子・大東和重（2010）を参照されたい。

2010年度からは全学共通教育機構教養・外国語教育センターの広報出版委員会が主催となったが、実施内容については旧語学教育部において行なった内容とほぼ同内容である。

2. 教育交流活動の概要

2.1 第3回『パートナーシップ』実施内容

① 企画意図及び目的

本学の日本人学生と留学生が出会う機会を提供し、本行事を通じて外国語の実践や動機づけ、学生間の自主的かつ積極的な国際交流活動への展開を目的とする。

② 実施内容

- ・日時：2010年6月16日（水）5時限
- ・場所：Eキャンパス内 BLOSSOM CAFÉ 3F 多目的ホール

- ・当日の流れ：
 - ア. 受付（学生スタッフの手伝いによる）後、軽食を受け取り、テーブルにて待機
 - イ. 開会、参加者への本行事の趣旨説明、ルール説明
 - ウ. 参加学生同士の挨拶と名刺交換、フリートーキング
 - エ. 学生スタッフ進行によるゲーム（あっちむいてホイ、たけのこニョッキ）
 - オ. 引き続き、参加学生同士のフリートーキング
 - カ. アンケート作成、『ことばのフェスティバル』及び学生有志によるサークル結成案内
- ・参加学生人数及び内訳：103名
 - * 教員参加人数14名、職員参加人数1名

表1 参加学生数 (名)

	事前申し込み	当日申し込み	合計
日本人学生	63	－	63
留学生*	39	1	40
	102	1	103

* 留学生には別科生も含む

表2 参加学生の学部別内訳 (名)

学部	日	留	学部	日	留
法	10	1	文芸	31	4
経済	2	2	総合社会	0	4
経営	19	14	留学生別科	－	8
理工	1	7			

表3 留学生の出身地 (名)

中国	16	アメリカ	1
韓国	12	ベトナム	1
マレーシア	6	ミャンマー	1
台湾	3		

③ これまでの実施内容からの変更点

- ・空間の確保

第1回目、第2回目共に11月ホール地下の食堂の一部を貸し切りにして実施し

たが、参加学生からのアンケートに広い場所の確保を求める意見があった。また、参加学生を増やし、より活発な活動を行なうためにも、第3回目より BLOSSOM CAFÉ 3F の多目的ホールを利用することにした。今後も約 100 名が参加する規模であれば、適切な空間であると思われる。

・学生スタッフの参加

これまでは企画段階から当日の運営まで全て教員が担ってきた。しかし、第1回目、第2回目に参加した学生の中から運営の協力が得られ、会場での受付、及び行事中のゲームの進行に加わるようになった。本行事が学生間の交流を行なうことが大きな目的でもあるため、次回以降も参加の方法を検討しながら共に行なっていく必要があると考えられる。

④ 今後の改善点

・多様な留学生の参加

表3にある通り、今回参加した留学生の出身地は7であった。その中でも本学には主にアジアからの留学生が多いため、中国や韓国、台湾からの留学生の参加比率が高くなる。資料編1.2に提示した、履修している（履修したことのある）外国語を見ると、英語を除けば中国語と韓国語が圧倒的に多いため、これらを履修している日本人学生にとっては、中国語や韓国語を母語とする留学生と直接対話ができる機会になっている。しかし、アンケート結果（資料編1.6参照）に「留學生が少ない」や「英語圏の留學生とも交流したい」といった意見も見受けられる。日本人学生と留学生の相互交流がより幅広いものとなるためにも、学内の連携を通じて、より多くの留學生に声を掛け、働きかける必要があると考えられる。

2.2 第3回『ことばのフェスティバル』実施内容

① 企画意図及び目的

『パートナーシップ』で出会った日本人学生と留學生がパートナーとなり、「〇〇語と私」、「〇〇での留学体験」、「留學生（日本人学生）との交流」等をテーマにして発表原稿の作成や発音練習など、発表に至るまでの一連の共同作業を通じて、外国語や日本語の運用能力向上及び、学生間の活発な国際交流と相互理解の促進を目的とする。

② 実施内容

・日時：2010年12月10日（金）16:30～18:30

- ・場所：38号館2階 多目的利用室
- ・当日の流れ：
 - ア. 委員及び教員有志による会場設営（横断幕、プロジェクター設定等）
 - イ. 発表者集合、発表順等確認
 - ウ. 開会の挨拶（教養・外国語教育センター副センター長）、審査委員紹介
 - エ. 審査対象者の発表（16組、原稿の日本語訳をプロジェクターにて提示）
 - オ. 特別枠の発表（3名、長期留学経験等の出場条件に当てはまらないケースの学生）
 - カ. 結果発表及び表彰
 - キ. 総評（広報出版委員長）
 - ク. 出場者・来場者と記念撮影
- ・発表者数及び内訳：21名（ペアで出場した学生がいたため、19組）

表4 発表学生の内訳及び観客数

発表言語	発表人数	学部内訳
ドイツ語	5	法1 経営1 文芸(院)1 理工2
フランス語	1	文芸1
中国語	7	経済3 経営1 文芸2 理工1
韓国語	6	経済2 文芸4
日本語	2	別科2
観客	約 70名（教職員含む）	

- ・発表内容の審査

審査委員長1名、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、日本語（英語の教員が担当）の審査員各2名、計11名により、担当言語については語学面から、担当以外の言語については態度面から審査。
- ・結果
 - 1位：文芸学部2年生（韓国語）
 - 2位：法学部3年生・文芸学研究科M1（ドイツ語）
 - 3位：文芸学部1年生（韓国語）
 - 人気賞：別科生（日本語）

③ これまでの実施内容からの変更点

・実施曜日

第2回までは『パートナーシップ』と同様の水曜日に実施した。しかし、以前より授業が重なり参加が難しいという声もあり、今回は金曜日の5時限の時間帯に変更した。この結果、発表者や聴衆の中から開催曜日・時間に関する意見や要望は特に見られなくなり、また、発表する学生との事前打ち合わせに時間的余裕ができた。

・新たな特別発表枠の設置

第2回は審査対象外の特別枠としてタイ語の発表を設けた。今回は申し込みの時点で当初予定していた15名よりも多い、24名の申し込みがあった。そのため、申し込んだ1年生に対しては発表する言語の学習時間数を確認した上で、次回申し込んだ場合に優先的に受け付けるよう話をして断るケースも生じた。また、出場できない条件として設けている、「外国での滞在年数6ヶ月以上」に該当する学生の申し込みも複数あったが、審査対象外の特別枠として3名の発表を認めることになった。これは、発表する学生のみならず、聴衆として来ている学生に対しても刺激を与える狙いがあり、資料編に載せた「発表者の人の経験談を聞くと大学生ってすごい行動力と自由さがあるのだと感じました。大学の間に留学や海外旅行の経験をしたかったです」という感想があるように、発表者と聴衆両者にとって良い結果になったと思われる。

・出場者や発表方法の多様化

毎回、新たなケースが生じているが、今回はフランス語での発表が初めてあり、また、二人一組で二組が発表、スピーチしながら写真を提示するなど、出場者が工夫をして多様な発表があった。当初より、スピーチ形式の発表のみならず、歌や寸劇などの発表も募集していたため、このような傾向は今後とも続くと思われる。

④ 今後の改善点

・パートナー作りの方法

発表者は発表に至るまでの準備を、パートナーとなる留学生や日本人学生と共にこなすことが前提である。しかし、このパートナーは『パートナーシップ』の時に会った相手と組めることが一番の理想であるが、『ことばのフェスティバル』まで約半年の期間があるため、実際は留学生会からの協力を得ながら教員側がパート

ナーを紹介しているケースが大部分である。今後は『パートナーシップ』時において『ことばのフェスティバル』との連携をより意識した運営方法を考慮していく必要があるであろう。

また、これら一連の行事に積極的に参加してきた学生により、国際交流サークル結成の動きが見られる。教員側からの紹介のみならず、このようなサークルに参加する学生の働きかけにより、学生による自主的な動きへと繋げていくことも可能であろう。

・事前審査方法の検討

今回は申込者数が多数あり、出場を断ったケースがあった。今後ともこのようなケースが起こることは十分に考えられ、申し込み時に原稿の提出や、発表予定外国語の録音資料の提出を課す等の方法を検討していく必要であろう。

3. 3年間の総括と今後の展開

本活動は第二外国語教育の学習支援活動の一つとして始まり、これまで関係教職員の協力の下、試行錯誤を繰り返しながら正規科目以外の第二外国語学習の機会を提供し、また同時に学内における国際交流の一つの形を創り上げてきた。ここでは計3回実施してきた一つの区切りとしてこれまでの内容を振り返り、今後の展開について提案を行なう。

3.1 『パートナーシップ』の総括

まず、これまでの『パートナーシップ』への参加人数等を年度別にまとめる。

表5 『パートナーシップ』参加人数

年度	2008年		2009年		2010年	
合計人数	71		86		103	
内訳	日	留	日	留	日	留
	39	32	51	35	63	40

毎年、多くの学生が参加できるよう人数を増やしてきたが、第3回で使用した施設の規模や進行の関係上、参加者数は全体で100名程度が望ましいと考えられる。また、日本人学生数と留学生数の比率も2010年度の比率、若しくは半分ずつの比率になるよう今後は参加申し込みの段階から調整を行なっていくことが考えられる。しかし、留学生数は大きな変化がないため、今後参加の呼びかけ方法等に工夫が必要であろう。

表6 日本人学生の学部内訳 (名)

	2008年	2009年	2010年
法	7	11	10
経済	2	3	2
経営	12	10	19
理工	3	5	1
薬	1	0	0
文芸	12	22	31
総合社会	-	-	0
不明	2	0	0

学部別内訳を見ると、文系学部からの参加が多いが、ほぼ全学部からの参加がある。参加学生からは留学生との交流のみならず、他学部との学生、先輩後輩との交流の場になり良かったという意見もあることから、今後とも全学的な取り組みとして続けていくことが必要であろう。

表7 日本人学生の履修第二外国語 (名)

	独	仏	中	韓	西	伊
2008年	1	2	25	2	1	1
2009年	2	4	14	21	3	3
2010年	2	1	25	25	2	1

当初より本行事の広報は学内の掲示板にポスターを貼ること以外に、第二外国語科目の授業中に参加の呼びかけを行ってきたため、参加者の大部分は第二外国語を履修している。

表8 留学生の出身地 (名)

2008年	中国7 台湾8 韓国10 インドネシア1 パキスタン1 カナダ2
2009年	中国18 台湾8 韓国10 ドイツ1
2010年	中国16 台湾3 韓国12 ベトナム1 ミャンマー1 アメリカ1

第二外国語履修学生の大部分が中国語と韓国語を履修しており、また、留学生も中国、台湾、韓国からの出身が多いため、日本人学生にとっては学習している言語を使用してみ

たり、留学生の出身地に対する質問をするなど、また、留学生にとっても日本人の友人を作るきっかけになったり、自らの出身地に対する情報提供ができる等、相互交流が比較的容易な場になっている。

しかし、より多くの留学生の参加こそ、身近な異文化接触の機会にも繋がり、更には学内のより活発な国際交流に結び付くと考えられる。本学におけるより一層の留学生の多様化が望まれる。

3.2 『ことばのフェスティバル』の総括

『ことばのフェスティバル』の発表人数の変化は次の通りである。

表9 『ことばのフェスティバル』発表人数及び発表言語

	2008年	2009年	2010年
合計人数	11	16	21 (19組)
発表言語	中国語 9 韓国語 2	ドイツ語 4 中国語 5 韓国語 4 日本語 2 タイ語 1	ドイツ語 4 フランス語 1 中国語 7 韓国語 5 日本語 2
発表学生 所属学部	法学部 2 経済学部 2 理工学部 2 文芸学部 3	法学部 2 経済学部 1 経営学部 4 理工学部 1 文芸学部 7 別科 1	法学部 1 経済学部 5 経営学部 2 理工学部 3 文芸学部 8 別科 2

回を重ねる毎に発表人数のみならず、言語も多様化してきた。外国語による発表であるため、文系学部からの発表者が多いが、どの年にも理系学部からの参加があり、文系理系問わず学生は多様な言語へ関心を持っている表れであろう。

3.3 今後の展開

これまで3年間に渡り、第二外国語学習の支援、日本人学生と留学生の学内における国際交流の活性化を目標に本活動を実施してきたが、現時点においては参加した学生同士の交流の中で、言語の学習のみならず、自らと異なる文化に触れることができる、相互理解のための一歩を踏み出した状態にあると言えよう。本活動は今後とも引き続き行なっていく

必要があるが、数的な面よりも質的な面においてより発展させていく必要があると考える。

そのためには、交流のきっかけの提供や学習への動機づけを目標とすることのみならず、よりレベルの高い外国語学習の機会提供、及び多様な形での国際交流の活性化を積極的に推進していくべきであると考え。その内容として、学生への学習支援方法の多様化、及びそれに伴うスタッフの役割について挙げてみる。

『パートナーシップ』及び『ことばのフェスティバル』への参加を通じ、興味のある外国語をこれまで以上に積極的に学ぼうという学生が増えている。この学習意欲を維持することにより、より高いレベルの外国語習得へ繋がるであろう。そのためには、一時的な行事のみならず、旧語学教育部において運営していた、第二外国語サロンの代わりになるものを設置する必要があると考えられる。現在、第二外国語を各学部の外国語科目以外の授業で学習できるのは語学センターの開講科目のみである。しかし、これは週一回の科目であり、学生本人の授業時間割によって希望していても受講できないケースもある。そこで、いつでも気軽に学ぶために訪ねることができる、「第二外国語学習室」の設置を提案したい。ここでは教員のみならず、学内の留学生の協力を得つつ、学生は自ら主体的に学びながらも、常に学習できる環境があることにより、意欲的に学習に取り組むことができると考えられる。

このような取り組みを行なっていくためには全学的な取り組みを前提としなければならない。特に、「第二外国語学習室」は語学の教員のみならず、各学部に在籍している留学生にも呼びかけていくことが考えられるが、呼びかけの際には各学部の教職員の理解と協力が不可欠であろう。留学生の協力を得ることができれば、日本人学生にとっては学んでいる言語の母語話者との日常的な交流も可能になり、同時に留学生にとっても日本人学生との繋がり場にもなる。新たな試みとなるが、これまでの教育交流活動と同様に、どちらかが一方的に恩恵を受けるのではなく、日本人学生、留学生双方にとってためになる取り組みとなるであろう。

また、『パートナーシップ』及び『ことばのフェスティバル』を通じて知り合った学生同士による自主的な交流活動の動きも見受けられる。これまでの教育交流活動が教員主導によるものであったのに比べ、学生が主体となった国際交流活動へと展開する可能性があると言える。このような外国語学習及び、国際交流を目指した新たな活動に対しても側面から支援していく必要があるであろう。この動きが実際に形として現れてくるのであれば、今後、『パートナーシップ』と『ことばのフェスティバル』を共に運営していくことも可能であり、より多様な教育交流活動が展開できるであろう。

4. むすび

ここまで、2010年度に実施した『パートナーシップ』と『ことばのフェスティバル』の報告及び、本学における二つの教育交流活動のこれまでのまとめ、そして今後の方向性についての提案を行なった。

外国語を学ぶことは新たな価値観との出会いでもあるが、これを教養として身につけると同時に隣人との交流のきっかけになることもできる。大学生にとっては在学中に英語をはじめ、その他の言語の学習も通じ、広い視野と多様な価値観を身につけることができるであろう。特に、第二外国語は授業を通じた学習以外にも、学内におけるこれまでの教育交流活動を通じてより身近に言語に触れ、学ぶことができる。在学中はこのような機会を通じて少なくとも一つの外国語を習得し、実践的な語学力の養成を通じた検定試験等の資格取得にも繋げることができ、同時に将来の進むべき方向にも何らかの影響を与えることができるであろう。

3年間に渡って実施してきた教育交流活動は、参加した学生が異文化との接触を通じ、より前向きに、外国語を学ぶ喜びを味わうことで学習意欲の向上に繋がったことが一つの成果であったと言えるであろう。

この成果も反省点も含め、今後も『パートナーシップ』と『ことばのフェスティバル』の教育交流活動を基にしつつ、本稿で提案した内容をはじめ、どのような学習及び交流の環境を整えていくことができるかが今後の課題であろう。

参考文献

- 魏穂君・酒勾康裕（2009）「学生交流から始める国際化 中国語及び韓国語の履修学生を対象とした教育交流活動報告」『語学教育部ジャーナル』第5号
pp. 141-172 2009年3月
- 酒勾康裕・徳永恭子・大東和重（2010）「学生交流から始める国際化 第二外国語の履修学生を対象とした教育交流活動報告」『語学教育部ジャーナル』第6号
pp. 203-249 2010年3月

資料編

1. 第3回『パートナーシップ』アンケートの結果

- ・実施日：2010年6月16日
- ・対象：第3回パートナーシップ参加学生103名
- ・回収数：86名(日本人学生55名、留学生31名)

1.1 回答者の学部

(名)

学部	日	留	学部	日	留
法	10	0	文芸	26	4
経済	2	2	総合社会	0	3
経営	17	10	留学生別科	-	8
理工	0	4			

1.2 履修している(履修したことのある)外国語

(名)

	英	独	仏	中	韓	伊	西	日
日本人	40	2	1	25	25	1	2	-
留学生	23	2	0	6	6	0	0	23

*複数回答含

1.3 パートナーシップを知ったきっかけ

(名)

項目	日	留
学内掲示ポスター	16	5
教員の案内	24	11
友人等、知り合いから	8	6
その他	0	0

1.4 パートナーシップへの参加理由

(名)

項目	日	留
留学生（日本人学生）と友だちになりたかったから	39	19
外国語で話してみたかったから	9	8
国際交流に興味があったから	36	16
教員や友人の勧めがあったから	8	8
以前参加して楽しかったから	2	0
その他	0	0

1.5 参加して良かった点（自由記述式）

(名)

日本人	いろいろな国の人と交流ができた	28
	留学生や日本人の友だちができた	25
	外国語で会話ができた	6
	外国のことが知れた	4
	いろいろな文化を知ることができた	1
	外国人が見た日本のことについて聞けた	1
	日本語学習のお手伝いがしたいと思った	1
留学生	日本人や留学生の友だちができた	19
	日本人、他国の人と交流ができた	6
	外国語を話す学生と話せた	3
	ゲームが楽しかった	2
	自分の国に関心のある人と話せた	3
	勉強になった	1
	日本人学生が外国に興味を知っていることが知れた	1

1.6 今後への期待、改善点（自由記述式）

		(名)
日本人	留学生と日本人の座席配置方法	10
	ゲーム内容の充実	8
	時間延長	8
	年に複数回開催（他のイベントも含めて）	5
	留学生が少ない	3
	英語圏の留学生とも交流したい	3
	施設改善（マイクが聞き取りづらかった）	1
留学生	時間延長	3
	ゲーム内容の充実	3
	留学生と日本人の座席配置方法	2

2. 第3回『ことばのフェスティバル』入賞者及び成績上位者の発表原稿、原稿の日本語訳 *発表学生の原稿に若干の修正を加えた。

- 1位: 文芸学部2年生 (韓国語) 2位: 法学部3年生・文芸学研究科 M1 (ドイツ語)
3位: 文芸学部1年生 (韓国語) 人気賞: 別科生 (日本語)

2.1 文芸学部2年 韓国語

안녕하십니까? 제 이름은 ○○○라고 합니다. 전 작년부터 한국어를 열심히 공부하고 있습니다. 한국어를 배우다 보니 한국 사람과 직접 이야기하고 싶어졌습니다. 만약 한국 친구가 생기면 같이 이야기도 하고 쇼핑 식사를 하는 상상을 해 봅니다.

하지만 대학에서 한국어를 배운 지 1년이 지났지만 제가 한국 사람을 알 기회는 없었습니다. 그런 중에 지난 7월 13일! 드디어 한국 사람과 만날 기회가 있었습니다. 그 경위를 소개하겠습니다.

그 날 3교시 전 종합 사회 학부 건물 앞에 앉아서 영어 공부를 하고 있었습니다. 그랬더니 제가 뒤에 누가 있는 것을 느꼈습니다. 제가 뒤돌아보니 여학생 2명이 저를 보고 있었습니다. 왜 그러는지 궁금했지만 계속 공부하고 있었습니다.

그러자 그 여학생 2명이 제가 있는 쪽으로 다가왔습니다. 그리고 노트를 보면서「あの、私たち韓国人なのですが、お話してもいいですか?」라고 일본어로 말을 걸었습니다. “와~ 이런 일도 있구나!” 하면서 너무 놀랐고 또 기뻐했습니다. “전 한국어 좀 할 수 있어요.” 라고 바로 대답했습니다. 그러자 “한국어 할 수 있어요? 오늘 우리 홈스테이 하는 집에서 파티를 하는데 저녁을 같이 먹을래요?” 라고 말 해 주었습니다. 갑작스러운 일이라서 놀랐습니다만 “예” 라고 대답했습니다.

그 후부터 의기투합한 우리들은 한 시간 정도 서로 한국어와 일본어로 이야기 했습니다. 둘 다 대학생이고 관광으로 3주동안 오사카에 머무르고 있다고 말했습니다.

전 4교시에 수업이 있었기 때문에 5시에 정문 앞에서 만날 약속을 하고 일단 “안녕히 가세요” 라고 말했습니다. 수업이 끝나고 5시에 약속 장소로 향했습니다.

그녀들이게서 “저쪽에 우리 친구들이 있으니깐 같이 가요” 라고 말해서 따라 가니깐... 거기에는 한국 사람이 6명이나 기다리고 있었습니다. 몇 시간 전까지 그냥 보통 학생이었던 제가 지금 한국 사람들에게 둘러 싸여서 한국어로 이야기하고 있다니! 그 후 전철을 타고 그들이 머무는 아파트에 갔습니다.

방에는 다른 한국 사람이 몇 명 더 있고, 서로 자기 소개가 끝난 후에, 저녁을 같이 먹었습니다. 메뉴는 신라면과 그들이 만든 김치 부침이였습니다. 너무 맛이 있었습니다. 17일 토요일은 텐노지에 가서 Mio 나 추텐카쿠를 구경했습니다. 시간은 금방 지나 그

친구들이 귀국하는 전날 송별회에 갔다 왔습니다.

거기에는 다른 일본 친구도 있었습니다. 친구들은 우리를 위해서 피아노와 기타를 치면서 많은 노래를 불러 줬습니다. 말은 100% 통하지는 않았지만 마음으로 교류 할 수 있었습니다. 7월 13 일에 그 친구들을 만나서 며칠 안 됐지만 마치 옛날부터 알던 친구처럼 즐거운 시간을 보냈습니다. 그리고 만남이라는 것은 눈에 보이지 않는 많은 선물을 마음에 안겨 준다는 것을 알게 되었습니다.

실은 전 아직 한 번도 한국에 가 본 적이 없어요. 내년에는 제가 한국에 가서 그 친구들을 만나고 싶습니다.

이상입니다. 감사합니다.

タイトル「本当の友だち」

こんにちは。私の名前は〇〇〇といます。私は去年から韓国語を熱心に学んでいます。韓国語を学んでみて、韓国人と直接話が見たいと思うようになりました。もし韓国人の友達が出来たら、一緒におしゃべりをして、買い物、食事などをしたいと考えてみます。

しかし、大学で韓国語を学んで一年が過ぎても、私が韓国人と知り合う機会はありませんでした。そんな中、今年の7月13日！ついに韓国人と出会う機会がありました。そのいきさつをお話したいと思います。

その日の3時限、私は総合社会学部の前のオープンテラスの前に座って、英語の勉強をしていました。しばらくすると、背後から人気を感じました。気になって後ろを振り返ると、女の子が2人立っていて私を見ていました。「なんだろう？」と気になりながらも、勉強を続けていました。

すると、その女の子2人組が私のもとに近寄ってきました。そしてノートを見ながら「あの、私たち韓国人なのですが、お話してもいいですか？」と、日本語で私に語りかけたのです。「わあ～こんなことってあるのね～!!!」ととても驚きましたが、嬉しく思いました。

“전 한국어 좀 할 수 있어요.” とすぐに返答しました。すると、「韓国語できるんですか？ 今日、私たちのホームステイ先でパーティーをするのですが、夕食を一緒に食べませんか？」とお誘いを受けたのです。突然のことで驚きましたが、「はい」と承諾しました。

そこからすっかり意気投合した私たちは、一時間近く片言の韓国語と日本語で会話しました。2人とも大学生で、観光で3週間大阪に来ているといいました。

4時限目に私は授業があったので、5時に正門前集合をして、一旦「안녕히 가세요 (さようなら)」と言いました。授業が終わって5時に待ち合わせ場所へ向かいました。

彼女たちから、「あっちに私たちの友達がいるので行きましょう」と言われ、ついていくと…。そこには韓国人が6人も待機していました。ほんの数時間前まで、ごく普通の学生だった私が、今韓国人に囲まれて韓国語でしゃべっているとは！その後、電車に乗って彼らが滞在しているアパートへ行きました。

部屋には他の韓国人も何人かいて、お互い自己紹介が終わったあと一緒に夕食を食べました。メニューは辛ラーメン・手作りのキムチチヂミでした。とてもおいしかったです。17日の土曜日は大阪の天王寺へ行き、Mio や通天閣を観光しました。時間はあっという間に過ぎ、友達が帰国する前日（19日）、お別れパーティーに行ってきました。

そこには他の日本人の友達もいました。友達が私たちのためにピアノとギターを演奏し、沢山の歌を歌ってくれました。言葉は100%通じなくても、心で交流できました。7月13日に彼女たちと出会ってたった数日しか経っていませんが、まるで昔から知り合いのように濃い時間を過ごしました。そして出会いは、目に見えないたくさんのプレゼントを心に抱かせてくれるのだということを知るようになりました。

実は、私はまだ一度も韓国へ行ったことがありません。来年は私が韓国に行って、友達に会いたいです。

以上です。ありがとうございます。

2.2 法学部3年生・文芸学研究科M1ドイツ語

A&B : Guten Tag.

A : Mein Name ist A.

B : Ich heie B.

A : Heute nehmen B und ich zusammen an dieser Veranstaltung teil, aber wir sind uns durch Deutsch das erste Mal begegnet.

B : Vielleicht wundern Sie sich, dass wir uns auf diese Weise begegnet sind.

A : Aber Deutsch bringt uns viele Begegnungen, nicht wahr?

B : Das stimmt! Ich bin von meinem Sitznachbarn im Zug angesprochen worden, als ich in meinem Deutschbuch gelesen habe. Das hat mich errascht.

A : Na so was! Er ist also Deutscher gewesen, nicht wahr?

B : Ja. Ich habe ihm nach besten Krften geantwortet.

A : Du Grnschnabel.

B : Und du?

A : Auf diese Frage habe ich schon gewartet. Ich habe einen Deutschen zum Freund!

B : Was!? Wirklich? Wie hast du ihn kennengelernt?

A : Durch meinen Deutschproffessor an der Uni habe ich viele Deutsche kennengelernt. Auch diesen Freund. Dann habe ich ihn durch Kyoto geführt. Wir haben viel Spaß gehabt, und er hat mir sogar ein Andenken geschenkt.

B : Du bist zu beneiden! Und jetzt?

A : Ich schreibe ihm noch per E-Mail.

B : Super! Du hast fleißig gelernt.

A : Guck mal, was ich nur geschafft habe. Aber nicht ich habe mit ihm gesprochen, sondern mein elektronisches Wörterbuch.

B : A-ha. Ich verstehe! Ein Wörterbuch also. Wir sind eben doch blöd.

A : Wir müssen wohl mehr Deutsch lernen.

B : Ja. Aber das lernen macht ja Spaß, weil es solche Begegnungen gibt.

A : Sprachen lernen ist eine tolle Sache!

タイトル「ドイツ語がもたらした多くの出会い」

A und B : こんにちは。

A : 私は A です。

B : 私は B です。

A : 今日、B と私はこのイベントと一緒に出場していますが、私たちはドイツ語を通じて出会いました。

B : おそらくあなた方は私たちがこのような出会い方をしたのを不思議に思うでしょう。

A : でも、ドイツ語はたくさんのお会いをもたらせてくれたよね？

B : その通り！私がドイツ語の教科書を読んでいた時、電車で隣の席だった人に話しかけられたよ。びっくりした。

A : そうなんだ！彼はドイツ人だったんだよね？

B : うん。私は返事をするので精一杯だったよ。

A : 甘いなあ。

B : じゃあ、君はどうなの？

A : その質問を待ってたよ。私は友達に一人のドイツ人がいるんだよ。

B : え！？本当？どうやって彼と知り合ったの？

A : 大学の教授を通じてたくさんのドイツ人と知り合ったよ。この友達もそうだよ。そして、私は彼に京都を案内したよ。とても楽しかったし、その上、彼は私に思い出の品

をプレゼントしてくれたよ。

B : 羨ましいなあ！今はどうしてるの？

A : メールのやり取りをしているよ。

B : すごい！熱心に勉強したんだね。

A : どんなもんだい。でもね、彼と話したのは私ではなくて私の電子辞書なんだ。

B : そう。なるほどね。さすが辞書だ。私たちもまだまだだね。

A : もっとドイツ語の勉強をしなくちゃいけないね。

B : うん。でも、このような出会いがあるから、勉強ができるよね。

A : 語学はすごいね。

2.3 文芸学部1年生 韓国語

여러분 안녕하세요?

저는 ○○○라고 해요. 문예학부 1학년이고 한국어를 전공하고 있어요.

그런데 여러분. 동방신기나 소녀시대, 카라 등 아이돌 그룹을 아세요? 요즘 일본에서 활동하는 것이 화제가 되고 있죠? 저는 한국노래가 좋아서 한국에 흥미를 가지기 시작했어요.

그러나 한국어를 전공하는 이유는 그 뿐만이 아니에요. 일본과 한국은 지리적으로도 가까운 나라이고, 역사적으로도 관계가 깊은 나라예요. 하지만 두 나라 사이에는 여러 가지 문제가 아직도 남아 있어요. 일본과 한국은 여러 의미로 “가깝고도 먼 나라” 라고 할 수 있을 거예요. 앞으로 이러한 거리를 조금이라도 좁혀 보자는 생각으로 한국어를 전공으로 선택했어요.

제가 한국어를 공부한 지 4개월 후인 지난 8월에 어학연수를 위해 한국에 3주간 가 있었어요. 그때 경험했던 것을 하나 소개하겠어요.

한국에서의 이동수단은 주로 지하철이나 버스이며 요금은 일본보다 싸요. 어느날 서울 시내로 놀러갈 때 지하철을 탔는데, 그때 앉아 계시는 아주머니 앞에서 친구들과 서서 일본말 특히 칸사이벤으로 이야기하고 있을 때, 그 아주머니가 “일본 사람이야?” 라고 물었어요. 그렇다고 하자 아주머니가 “이거 먹어!” 라면서 내 준 것은 옥수수였어요. 저희는 아주머니가 가방 안에서 옥수수가 나온 것에 많이 놀랐고, 받을까 말까 망설였는데 아주머니가 미소를 띤 얼굴로 “먹어! 먹어!” 라고 몇 번이나 했기 때문에 받아서 먹었어요. 일본 옥수수보다 쫄깃쫄깃했지만 달지는 않았어요. 저는 그 옥수수를 잇을 수 없어요. 생면부지의 외국인인 저희들에게 옥수수를 주는 따뜻한 마음에 감동했어요.

들어 주셔서 감사합니다.

タイトル「わたしが触れたあたたかい韓国」

みなさん、こんにちは。

わたしは〇〇〇といます。文芸学部の1年生で、韓国語を専攻しています。

ところでみなさん、東方神起や少女時代、KARAなどのアイドルグループをご存じでしょうか。最近日本での活動が話題になっていますよね。わたしは韓国の歌が好きで、韓国に興味を持ち始めました。

しかし、韓国語を専攻している理由はそれだけではありません。日本と韓国は地理的にも近い国で、歴史的にも関係が深い国です。しかし両国の間には様々な問題が未だに残っています。日本と韓国は色んな意味で「近くて遠い国」と言えるでしょう。これから、そのような距離を少しでも縮めてみようという思いで、韓国語を専攻に選択しました。

私が韓国語を勉強し始めて4ヶ月が経った今年の8月、語学研修のために韓国に3週間行っていました。その時経験したことをひとつ紹介します。

韓国での移動手段は主に地下鉄やバスで、料金は日本より安いです。ある日ソウル市内に遊びに行ったとき、地下鉄に乗ったのですが、その時、座っていらっしゃるおばさんの前で、友達と日本語で、特に関西弁で話していたら、そのおばさんが「日本人なの？」と尋ねてきました。「そうです。」と答えると、「これ食べて！」と言いながら、差し出してくれたのはトウモロコシでした。わたしたちは、おばさんのカバンの中からトウモロコシが出てきたことにびっくりし、うけとるか、うけとるまいか悩んでいたのですが、おばさんが微笑みながら「食べて！食べて！」と何度も言うので、受け取って食べてみました。日本のトウモロコシよりモチモチしていて、甘くはありませんでした。わたしはそのトウモロコシを忘れることができません。見ず知らずの外国人であるわたしたちにトウモロコシをくれた温かい心に感動しました。

ご静聴ありがとうございました。

2.4 留学生別科 日本語

タイトル「日本留学、これまでとこれから」

私は日本へ4月に来ました。そして、もう8ヶ月になります。日本で過ごす日々がミャンマーで過ごす日々より過ぎるのが早いと感じています。日本へ来た時、ちょうど桜が咲いていてとても感動しました。なぜなら、私は初めて桜を見たからです。あの時見た景色は一生忘れません。

そして、日本に来たばかりのころ、「すみません」はあやまる時に使う言葉だとばかり

思っていたので、日本人はいつもあやまっていると思い込んでいました。しかし、「すみません」はコミュニケーションの潤滑油のようなもので、「ありがとう」の意味でも使うし、たずねる時にも使うと知り、大変驚きました。

私が日本に留学しようと思ったきっかけはミャンマーでは農業が盛んで、私は前から農業に興味があり、農業の大学に進みました。その時、日本に留学している姉から日本のさまざまな話をよく聞いていました。その中でお店に並ぶ野菜や果物が色も形もとてもきれいだし、すごくおいしいと聞き、とても興味を持ちました。日本はミャンマーより農業の技術が進んでいるので、日本で農業について勉強したいと思いました。将来はミャンマーへ帰って日本で学んだ技術や知識などを活かして、ミャンマーの農業の発展の手助けになるような仕事をしたいと考えています。

2.5 文芸学部2年生 中国語

你们好。我叫○○○。我是近畿大学文艺系的学生，现在二年级。我喜欢占卜。

占卜有好多种类。例如血型占卜、星占和手相等。在日本最流行的占卜要数血型占卜了。因为流行，所以在很多的书店里都有出售这一类的书。根据书上所说，血型共分为四种，人的性格也是由这四种血型决定的。A型的人很认真、细心、喜欢干净。B型的人比较以自我为中心、有自己的想法。O型的人为人做事马马虎虎、大大咧咧、喜欢自由。AB型的人头脑聪明、拥有双重人格、有比较强的独创性。对于这些，我以前赞成这种说法，因为书上所说的，在大多数的人身上都可以体现出来。但是对此表示否定的人也很多。他们说性格和血型没有关系，人的性格是不可以只分成四个种类的。血型占卜是否可以准确的测试出人的性格我不知道。但是中学时代，我是非常相信占卜的。

那个时候，每天都要从电视上看当天的星座运势。星座占卜中，最受女生欢迎的是恋爱运的占卜，其中就包括我。那个时候，班上有一个男生非常受女生的欢迎。班上有三个女生都喜欢他。好笑的是那三个女生的星座都一样。所以恋爱运的好坏也一样。如果说根据星座可以判断恋爱运的好坏，就可以知道什么时候可以恋爱，可以跟什么人恋爱，那是不是说因为星座相同的原因，所以三个女生同时可以和那个男生谈恋爱。答案是不可能。从这件事后我开始不相信占卜了。

虽然我不再相信占卜了，但实际上相信占卜的人还是有很多的，因为占卜而高兴、因为占卜而伤心，心情的变化全部由占卜而决定，这让我觉得很有趣。但是因为占卜而使心情变坏这让我觉得是一种“浪费”。为什么原本好好的心情要因为一个不知道是否准确的占卜结果而影响呢？保持一个好心情是多么美好的一件事啊！所以对于占卜，最好是不要完全相信，保持一个平和的心态。这样的话，就可以很幸福的生活下去了。

タイトル「占い」

こんにちは。私の名前は〇〇〇です。私は近畿大学文芸学部の学生で、2回生です。私は占いが好きです。

占いにはたくさんの種類があります。例えば血液型占い、星占い、手相占いなどです。日本で最も流行している占いは血液型占いでしょう。流行しているために、沢山の書店でみな、この種の本を販売しています。本のいう所によると、血液型は合わせて4種類に分けられ、人の性格も、この4種類の血液型によって決められているそうです。A型の人は、真面目で、気が利き、きれい好きで、B型の人は、少し自己中心的で、自分の考えを持っていて、O型の人はおおざっぱで、気まぐれで、自由を好み、AB型の人は、頭がよく、二面性があり、独創的であるとされています。本の中でいわれていることは、沢山のの人に具体的に当てはめられるので、私は以前、このことについて信じていました。しかし、これに対してこれに否定する人はとても多いのです。彼らは、性格は血液型と関係がなく、人の性格は4種類に分けることは出来ないといいます。血液型占いが、人の性格を正確に検証するかどうか、私は分かりません。しかし、中学生の時、私はとても占いを信じていました。

あの頃、毎日テレビでその日の星座占いの運勢を見ていました。星座占いの中で最も女の子が好きな占いは恋愛運の占いで、その中に私も含まれていました。あの時クラスにとっても女の子に人気のある男の子がいました。クラスの3人の女の子はみな彼のことが好きでした。面白い事にその3人の女の子はみな、星座が同じだったのです。だから、恋愛運の良し悪しも、同じです。もし、星座占いで恋愛運の良し悪しを判断できるとすれば、いつ恋愛できるか、誰と恋愛できるかが分かり、それは星座が同じだから彼女たち3人は、あの男の子に恋愛できると言っているのではないのでしょうか。答えは、それはありえない事なのです。そのことがあってから、私は占いをあまり信じなくなりました。

私は占いを信じていないけれども、実際に占いを信じている人は大勢いて、占いのおかげで嬉しくなったり、占いのせいで悲しくなったり、占いが心を操ることは、とても面白いと思います。私は、占いの為に心が落ち込んで、"勿体ない"と思うのです。どうしてもともと気分が良かったのに、確かかどうか分からない占いの結果で影響を受ける必要はないのです。良い結果だけを信じれば、どんなに素晴らしいことでしょう。だから、私は占いについて最も良い事は、完全に信じ切らず、心に平和なゆとりを保つことです。そうすれば、とても幸せな生活を送っていく事が出来るでしょう。

3. 第3回『ことばのフェスティバル』聴衆からの感想抜粋

「今回ことばのフェスティバルに聴く側として参加して思ったことは、スピーチした方々は皆、大学生活で自分がしたいことを素直にしているなと思いました。正直、僕自身が今、大学生活でしたいことが何なのかははっきりしていないし、将来何がしたいのかわからないので、皆がうらやましいと思いました。(中略)ドイツ語を第二外国語でとっていますが、あそこまで話せたらいいだろうなと思いました。更に他の言語にも触れることができ、非常に良い機会だったと思います。」(法学部1年生 ドイツ語履修)

「僕は中国語を選択しているので、中国語以外の語学はスピーチだけでは理解できませんでした。しかし、ドイツ語、韓国語、フランス語など、たくさん聞いてよかったです。発表者の人の体験談を聞くと、大学生ってすごい行動力と自由さがあるのだと感じました。大学の中に留学や海外旅行の経験をしたかったです。」(法学部1年生 中国語履修)

「思ったことは、みなさんスゴいということです。発音などもしっかりできていたし、中には身振り手振りを使って話していた人もいました。でも、僕が一番感じたのはこんなに話せるのは日頃から第二外国語に力をいれているためだなど、強く感じることができました。これから第二外国語に今より以上に力を入れたいと思いました。」(経営学部1年生 中国語履修)

「この機会を通して、韓国語以外の学習者の様子が伺えてよかったです。とても刺激になりました。言葉を通じて皆一様に素敵な出会いにめぐり会ったり、新たな世界に出会っているようで、それがどの人からも伝わってきました。学んでいる言語は違っても共感するところがたくさんあって、楽しかったし、感動しました。(以下、省略)」(文芸学部2年生 韓国語履修)

「外国人と話す機会が少ない日本でこのレベルに達したのはすごいと思う。」(別科生)

「面白かった。感心した。しかし、話ばかりで何か物足りないと感じられた。」(別科生)

4. 第3回『パートナーシップ』及び『ことばのフェスティバル』の写真

4.1 『パートナーシップ』

歓談の様子



交流ゲーム



4.2 『ことばのフェスティバル』

発表の様子①



発表の様子②（二人組の発表）



発表者たち



発表者と審査員、観客

